



コミュニティ・スクール  
長井市立致芳小学校だより  
令和4年 12月1日 NO.15  
校是「和致芳」

みんなが仲良く高め合って、たくましく輝く致芳校をつくろう  
『一人一人が自己の成長を実感し、笑顔になる学校へ』

## 第2回学校運営協議会で「未来の致芳」を熟議

10月末に第2回致芳小学校学校運営協議会が行われました。今回の大きな柱は「未来の致芳を考える熟議」です。「コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりの一層の推進に向けて」(コミュニティ・スクールの推進に関する調査研究協力者会議)資料にはこう記されています。

【学校を核とした地域づくりの推進】 ~人づくりと地域づくりの好循環を生み出すために~

学校と地域の関係を捉えていく上で大切な視点は、学校が「子供の学びの場」とどまらず、「大人の学びの場」でもあり「地域づくりの核」にもなるという視点である。学校を核として、地域の人々が集い、つながり、活動する中で、互いに自立し、助け合い、励まし合い、よりよく成長していくための地域コミュニティが活性化し、再構築につながっていくことが期待される。学校を核として地域の人々がつながることは、地域の絆をつなぎ地域の未来をつなぐことになる。(中略) 一方的に、地域が学校・子供たちを応援・支援するという関係ではなく、コミュニティ・スクールの仕組みを通じて、学校と地域が膝を合わせて、互いに意見を出し合い、学び合う中で、地域も成熟化していくとともに、子供たちも総合的な学習の時間や、放課後・土曜日等の教育活動等を通じて地域に出向き、地域で学ぶ、あるいは、地域課題の解決に向けて学校・子供たちが積極的に貢献するなど、学校と地域の双方向の関係づくりが期待される。まずは、全ての学校において、学校の場所や施設等を積極的に開放していくことによって、地域の人々が集い、つながり、学び合う「場」とすることから始めることが期待される。

致芳のことを語っているようにも思えます。ずっと以前から学校・コミセン・保護者・地域が一体となった取り組みが致芳ではなされてきました。Beyond ちほうに象徴される具体的な目標設定と実践で形になっています。10年後20年後を考えて、さらに地域と一体となって「地域とともにあるコミュニティ・スクール致芳小」を目指して、一歩進んで熟議を行うことにしました。

### 令和4年度 致芳小学校の成果と課題

【学校評価アンケートから】

強み ◎交通ルールやきまりを守る子供たち ◎友達と仲良く過ごすことができる

課題 △テレビ、ゲーム、PCなどメディアのし過ぎ △家庭での読書

【学校全体としての課題】

- 1 学力の向上 …「学びに向かう力、人間性など」は地域のもも借りて
- 2 自分に自信を持つ「自己肯定感を高める」 …自己の成長を実感できるようにデータを大切に
- 3 いじめ、不登校をなくす …一番困っている子をクラスや学校の真ん中において考える
- 4 空き教室の有効利用 「学童クラブ」を学校へ …4月当初から移行、次年度は教室の整備



## 学校運営協議会【未来の致芳を考える熟議 グループ熟議の報告】（3グループから）

- ① メディアに関して(eスポーツなど)触れ合う頻度が増えてきている中で考え方を見直す。タブレット等の画面を見ただけでは覚えられないこともあるため、実際に体験することが大事。地区長さんや地区長会長さんにも協力いただいて故郷のことを勉強する。学校との連携について代議員で引継いでいく。各学年の親子行事でコミセンと協力したりして地域とともに事業を行っていることが良い。将来、地域に戻ってくるには、子供の頃から地域の行事に参加したりして大人や地域との関わりが大切。
  - ② 子供の声を実現するには学校ではできないこと(例:ハロウィン・庭整備等)を地域でする。自分で選んでやる学習を進める。子供の得意分野を生かす授業を各専門の知識に詳しい地域のプロフェッショナルに協力してもらい学ぶ。挨拶が良いと地域の声がある。
  - ③ 獅子踊りの練習が始まる前に役割や気持ちを伝え、話す機会が必要。大人の獅子踊りを見る機会がほしい。小学校への憧れを持つ面から児童センターで小学生の発表等交流がほしい。児童クラブが学校に入ったことで、学童と学校の職員が話す機会が増えた。
- 早速今年度から取り入れていきたい貴重なご意見がたくさん出されました。そして地域の方々から「自分達も協力する」と力強く後押ししてくださいました。本当に嬉しい言葉でした。

## 学校保健委員会が開催されました。11/24 ～新型コロナ、メディアの取り組み・悩みをグループで共有～

11月24日に学校保健委員会が開催されました。学校・保護者・地域・関係機関が連携して学校の保健に関する課題を検討して、子供たちがより健康に健全に育つようにするためのものです。仕事終わりのお忙しい中、学校医の梅津先生、眼科医の桑島先生、学校歯科医の長岡先生、学校薬剤師の影山先生にもご参加いただき、ご指導をいただきました。今回は健康に関する疑問や家庭での取り組みや悩みについて、グループに分かれて話し合いを行いました。

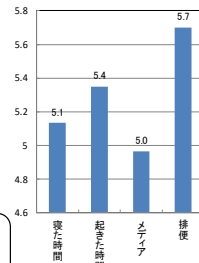
【8/24(水)～8/30(火)取り組み結果から】

### ＜7日間のめあて達成平均日数＞

学年	ずいみん		せいかつ		評価
	寝た時間 評価(0～7)	起きた時間 評価(0～7)	メディア 評価(0～7)	排便 評価(0～7)	
1年	4.8	4.3	4.3	4.9	18.3
2年	5.0	4.6	4.4	5.6	19.5
3年	5.8	5.4	6.5	6.1	23.7
4年	5.1	5.5	4.4	5.7	20.6
5年	4.3	6.7	4.7	5.3	10.9
6年	5.8	5.6	5.5	6.6	23.5
平均	5.1	5.4	5.0	5.7	19.4

■ :6日以上 ■ :5日未満

- 昨年度と比較すると、寝た時間の達成平均日数が増加した。(昨年度4.5日)
- メディアの達成平均日数が低い。
- 「排便」については、意識して生活した児童が多かったようだ。



新型コロナウイルス感染症の動向と今後の留意点、メディアとのかかわりをどのようにしているのかなど日頃の悩みなどを話し合い、課題を共有することができました。特にメディアと視力については眼科医の先生より「メディアとのかかわりで一番問題なのは『視力』の低下なのか。視力はその一つで、皆さんが感じているようにSNSトラブルや生活リズムの乱れなどもっと大きな問題は他にあるのではないか。視点と発想を変えて、この問題に取り組んでみてはどうか」とご指導をいただきました。それぞれの専門的な立場からのご指導は学校・保護者にとって大変貴重であり、今後の取り組みに生かしていきたいと思っております。



## 授業にご協力をいただいています。

11月下旬から、新しい先生にご協力をいただいています。非常勤講師として五十川の鈴木真弓先生、国語・家庭・図工を中心に授業を受け持ってくださいます。学校教育支援員として、成田の寺嶋孝一郎先生、様々な学級で支援をしていただいています。よろしくお願ひします。